

演習問題 施工 1

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に余白に描き出してみてください

ウラ模試 2

[No.5] 地盤調査に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 機械の設置等によりボーリング孔が鉛直でない場合、N 値が小さめに測定されることがある。
2. ボーリング孔を利用した弾性波速度検層（PS 検層）により、地盤内を伝搬する弾性波（P 波・S 波）の速度を測定し、その速度値から地盤の硬軟を判定した。
3. 平板載荷試験において、試験地盤面については、直径 30cm の円形の載荷板を中心に 2.0m×2.5m の範囲を水平に整地した。
4. 軟弱粘性土の一軸圧縮試験に、固定ピストン式シンウォールサンプラーで採取した試料を用いることとした。

ウラ模試 1

[No.6] 土工事及び山留め工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 砂質土地盤の床付け面を乱してしまったので、転圧による締固めを行った。
2. セメント系固化材を用いる地盤改良工法を施工するに先立ち、現場の土壌と使用する予定のセメント系固化材とを用いて促進中性化試験を行った。
3. 鋼製切ばりにプレロード工法を採用するに当たって、油圧ジャッキの位置を、根切り平面の中央部分に千鳥に並ぶように配置した。
4. 鋼製切ばり継手部において、両方の切ばり材の仕口における端部のあて板が面接触とならず、わずかな隙間が生じたので、その隙間にライナーを挿入して接続する切ばりの軸線が直線となるようにした。

ウラ模試 1

[No.7] 現場打ちコンクリート杭工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. アースドリル工法において、表層ケーシング以深の孔壁の保護に用いられる安定液については、孔壁の崩壊防止や、コンクリートとの置換を考慮して、ベントナイトを主体として、分散剤や変質防止剤等を加え、コンクリートと比べて低粘性かつ低比重のものとした。
2. オールケーシング工法において、孔内水位が高く沈殿物が多い場合、ハンマーグラブにより孔底処理を行った後、スライム受けバケットによりスライムの一次処理を行った。
3. 特記がない場合、工事監理者の許諾がなければ、本杭と当らない敷地の中央付近の位置に、本杭のうち最も長い杭と同じ配筋の杭を試験杭として施工しなければならない。
4. 鉄筋かごの組立てにおいて、補強リングについては、主筋に断面欠損を生じさせないように注意して、堅固に溶接した。

ウラ模試 2

[No.7] 杭工事に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 場所打ちコンクリート杭工事において、コンクリートの打込みに際し、杭頭部に余盛りを行い、コンクリートが硬化した後、余盛り部分を研り取った。
2. セメントミルク工法において、杭の自重だけでは沈設が困難な場合は、杭の中空部に水をいれて重量を増すことがある。
3. プレボーリング工法の施工精度を確保するためには、土質が変わっても掘削速度を変えないことが必要である。
4. 場所打ちコンクリート杭の施工において、拡底杭については、超音波孔壁測定を行い拡底形状を確認した。